

## 徳島県下遍路道における外国語表記の案内表示について

### －外国人歩き遍路が遍路道を踏破する際の視点から－

生涯学習研究院 多文化共生領域 高 瀬 絵 梨

2020 年に東京オリンピックを控え、訪日外国人観光客は過去最大の伸び率となった。四国でも外国人観光客の数は年々増加しており、四国遍路は 2014 年に霊場開設 1200 年を迎えたこともあり、国内外で大変盛り上がりを見せている。そこで本研究では、巡礼という特殊な観光形態に注目し、徳島県下で遍路道、また霊場における外国人遍路への支援や対策について 2016 年 10 月から 2017 年 1 月にかけて、総距離約 200 キロの徳島県下の遍路道を歩き、道上の案内標識と第 1 番霊山寺から第 23 番薬王寺までの霊場で調査を行った。

調査の結果、外国語表記の案内表示は特に多くは見られなかった。国土交通省や環境省が設置している道路標識や石標などは日本語、主に漢字表記のみであったが、各団体や個人が設置している遍路ステッカーはローマ字の霊場名や霊場の番号、また矢印記号が表記されていることが多く、道標として大きな役割を担っている。徳島市内中央部では標識やシールの設置に制限もあるのか、あまり多くの数は発見することはできなかった。道路道の標識だけでは徳島県の遍路道を踏破することは日本人、外国人遍路ともに容易ではなく、歩き遍路は地図の持参が必須であることが明らかになった。霊場に関しては、外国人遍路に向けた一丸となった霊場主体の対策はとられていないのが現状である。だが、外国人遍路の多い霊場などでは独自に英語でのマニュアルや英語表記看板などを作成しているなどの取り組みが見られた。また無料の Wi-Fi スポットとして登録されている霊場もあったが、多くの霊場は特別な対策はとっていない。

四国遍路全体を通して外国人遍路に対する支援や対策は、多くの外国人遍路が旅行会社の主催するツアーよりも個人で巡礼を行うケースが多い点から考えると、まだ十分ではない。今後四国遍路が世界遺産登録を目指すに当たり、四国四県が連携し、外国人遍路に向けた施策を講じることは火急の課題である。また遍路道は地域の協力なくしては存続不可能であるため、その取りまとめも必要である。四国を訪れる外国人遍路が安全に安心して巡礼する視点においての遍路道、霊場の整備が期待される。